



グリップを切らずに抜き取るために、グリップとシャフトの隙間に溶剤を送り込むポンプ式注射器。ホース先端の針をグリップに差し込み、溶剤を送り込むことで、両面テープのノリを溶かし、抜きやすく、グリップの再利用（リグリップ）がスムーズに行える工具。

※ご使用前にはホース先端付近を指でつまみながら、ポンプレバーを操作して、ホース先端まで溶液を送ってから作業して下さい。（圧力を高めるため）

※ベンジン・ホワイトガソリン以外の溶剤を使用すると、ポンプ内部の詰まりや故障の原因になりますので使用しないで下さい。

## 関連商品

【消耗品】 グリップリムーバーガン用交換針 (5 個入) (5650-0003)      グリップリムーバーガン用 高強度交換針 (1 個入) (5650-0006)

【交換部品】 グリップリムーバーガン用 交換ホース (1 本) (5650-0002)      グリップリムーバーガン用ポンプ (予備用) (5650-0004)

※注意※ 関連部品は本製品以外とは互換性がないので、他製品には取り付けて使用しないで下さい。  
交換針を、ポンプ部分に直接取り付けての使用は危険ですので、絶対におやめ下さい。  
必ずホースの先端に取り付けて使用して下さい。

## ご使用前に

本品は出荷前に正しく機能するか、チェックを致しておりますが、万が一に備え、ご使用前に以下の確認作業を行って下さい。

## チェック1



ポンプを数回押して空気が出ているか、チェックをして下さい（左図参照）。次に、ホースを取り付ける前の噴霧用の初期状態で、ポンプを溶剤を入れた本体タンクにセットし、溶剤が噴射できるか確認します。

初期段階では溶剤を吸い上げるのに 50 回ほどレバーを引く必要があることもあります。噴射口を指で塞ぎ、溶剤を吸い上げやすくしたり、チェック4の作業を行うことでレバーを引く回数を減らせます。50 回以上のレバー操作でも、吸い上げで溶剤が噴射されない場合は、下記のチェック2の作業を行って下さい。

## チェック2



ポンプを本体から外し、ポンプに付帯するストロー部末端の真鍮部を数回叩く。



ポンプ上部の真鍮ボルト部を数回叩く。



ポンプを本体へ戻し、溶剤が噴射できるか再度確認します。50回以上の吸い上げで、溶剤が噴射されない場合は、お手数ですが、更に次頁のチェック3の作業を行って下さい。



## チェック3



ポンプを本体から外す。  
ポンプに付帯するストロー部末端の真鍮部品を外す。  
ポンプ上部の真鍮ボルト部を外す。  
真鍮部の組付けが固い場合、レンチなどが必要になります。

※注意※

真鍮部品内部には小さな鉄球とバネが各1個ずつ装填されています。小さな部品ですので、紛失には十分注意して下さい。  
取り外した鉄球とバネが固着していないことを確認し、元に戻します。  
固着していた場合は、丁寧に拭き上げてください。



ストロー部末端の真鍮へは、鉄球を先に戻し、最後にバネ(鉄球側が狭い側です)に戻し、元通りに真鍮部品を取り付けます。



ポンプ上部の真鍮ボルトへは、バネを先に装填し、鉄球を最後に戻し、元通りに真鍮ボルトを取り付けます。ポンプを本体に戻し、溶剤が噴射できるか、再度確認します。空気は出るのに吸い上げない場合は、チェック4の作業を行って下さい。

※真鍮ボルトが緩んでいると、正常に吸い上げが出来ませんので、確実に取り付けて下さい。

## チェック4



チェック3ご参照の上で、ポンプ上部の真鍮ボルト部品を外し(バネと鉄球の紛失にご注意下さい)、溶剤を鉄球が浸るまで注ぎ、レバーをゆっくり数回引きながら、溶剤が吸い込まれず、溢れてくるようになるまで充填します。

真鍮ボルトをもどし、10回程度の吸い上げで溶剤が噴射されない場合はお手数ですが、弊社までご連絡下さい。

## ご使用の前に

別の包装に入ったホースと注射針を取り付け、容器の中にベンジンまたはホワイトガソリンを入れ、既にシャフトに装着されているグリップ(ただし、劣化した古いグリップには不向きです)に注射針を差し込み、ポンプの圧力を利用して、溶液をグリップとシャフトの間に注入し、両面テープの粘着力を弱めて引き抜きます。

※付属の注射針は、折れや曲がりへの対応から、針の長さが短いものを採用しており、安全性を高めるため、針根本の締結部に一定以上の力が加わると、破断するように作られています。作業の際は、針を刺す方向以外の力を加えないよう、ご注意ください。

※ベンジン・ホワイトガソリン以外の溶剤を使用すると、詰まりや故障の原因になりますので使用しないで下さい。

## ご使用手順

1. クラブを動かないように万力等に固定し、折れや曲がり注意しながら、注射針をグリップに差し込みます。
2. ポンプの圧力で溶液をグリップとシャフトの間に注入し、グリップテープの粘着力を緩めてから、一気に引き抜きます。
3. 引き抜いたグリップの内部に両面テープや粘着剤が付着してしまった場合は、グリップクリーナー等(商品番号: 5688-0101)で除去してから再利用して下さい。

【注意事項】注射針は人体に刺さると大変危険ですので、作業する際は十分ご注意ください。また、使用なさらない時は、付属のキャップを取り付け、お子様の手の届かないところに保管して下さい。